

# 建築文化賞

景観に配慮した建築物

住民と創る音楽ホール・公民館・図書館等

## 幕張ベイタウン・コア

建築主：千葉県企業庁  
設計：株式会社 設計・計画 高谷時彦事務所  
施工：新日本建設株式会社

所在地：千葉市美浜区打瀬2-13



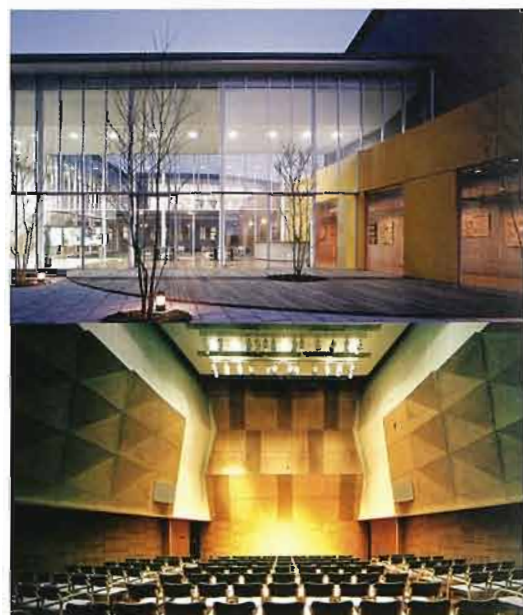
プロムナード側全景、エントランスと音楽ホール（撮影 小川泰祐）

幕張ベイタウンは、わが国でヨーロッパ的な街路型のまちづくりをめざした数少ない事例の一つである。元来そこにあった都市の文脈や構造をベースに重層させていくそのオリジナルのありようとは異なり、幕張では全く新しい白紙の上にそのような都市空間を、しかも短時間のうちに構築することが前提であった。明快な図と地の関係によって構成されるこの街路型のまちづくりは、それゆえに大きな関心を集め、これまでさまざまな議論が展開されてきた。

このコミュニティーセンターとしての〔ベイタウン・コア〕は、まさにその熟成過程で極めて誠実に、そして極めて民主的に企画され、設計され、建設され、そして運営されている。

その背景にあるのは、幕張ベイタウンに着実に育ちつつある「市民社会」の多様で活発な活動と、そしてわが町のアイデンティティを強烈に感じている住民達による参加のプロセスの力である。その過程で顕在化する利害の衝突を越え、献身的に協働した建築家の態度は、決して凡庸な建築の結果に陥ることなく、その透明でヒューマンなたたずまいの中に垣間見ることができる。小さくも稀有なコンサートホールの実現に見てとることができる。

白紙の上のまちづくりであるがゆえに、「地」にあたる空間はいまだにややとりとめがない。特に隣接する小公園との連



◀ ラウンジの向こうに中庭  
図書館の円形壁を望む

◀ 小さいが快適で響きの良い音楽ホール

続性や、囲み感が弱い中庭的な外構が今後どのように設けられ、使われ、熟成してゆくのか、不安と期待が交錯する。

しかし、プロセスが作り上げた継続的な力は、そうした課題をやがて解決してゆくことだろう、そう思わずにはいられないこの市民の建築の可能性に多くの票が集まった。（岩村和夫）